



優雅な感情を養うは、他人の苦痛に対する思いやりを生む。しかして、他人の感情を尊敬することから生ずる謙遜・慇懃の心は礼の根本をなす。

(武士道 新渡戸稲造著 矢内原忠雄訳
第5章 仁・惻隱の心 より)

がん哲学外来

【日時】平成23年10月14日(金)

① 12:00～13:00

② 13:00～14:00

【場所】岩手県立中央病院

新外来棟一階 がん化学療法科外来

樋野 興夫 先生 略歴

1954年、島根県生まれ

順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授、順天堂大学大学院医学研究科環境と人間専攻分子病理病態学教授、医学博士。米国アインシュタイン医科大学肝臓研究センター、米国フォックスチェースがんセンター、癌研実験病理部長を経て現職。順天堂大学医学部附属順天堂医院に2005年に「アスベスト・中皮腫外来」、2008年に「がん哲学外来」を開設。



顕微鏡を通してみた細胞の詳細な観察と、人間社会における一つの細胞とも言うべき個人の在り方を深く洞察することによって、この二つの類似性に気づかれた樋野興夫先生が、「がん哲学」を提唱されました。

樋野先生は、高度な専門知識（癌学）と幅広い教養（哲学）を兼ね備えている人物であり、視野狭窄にならず、複眼の思考を持ち、教養を深め、時代を読む「具眼の士」であるといわれております。がん哲学に立脚し、人間のあり方の本質を問うものが、「がん哲学外来」です。人生の意味を共に考える場であるとも言えましょう。樋野先生は長年にわたり、新渡戸稲造の思想を研究、実践されてきましたが、がん哲学の背景に、郷土の偉人・新渡戸稲造があることは、岩手県民の誇りとするところであります。

新渡戸稲造生誕の地である盛岡で、「新渡戸稲造記念 がん哲学外来 in 岩手県立中央病院」が開催されますことは、歴史的快挙と言えます。今回、2名(2組)の方の相談をお引き受けいただきましたので、参加希望の方はお問い合わせいただければと存じます。希望者多数の場合は、抽選となりますがご容赦ください。